

石阪市政の補助金削減路線にノー 老人クラブ補助金削減に待った

共産党は、市民活動支援求めて奮闘



ダリア園 開所式

7月2日、町田ダリア園の開所式が行われ、市議会を代表して殿村健二副議長があいさつしました。（左から三人目）

2016年第2回町田市議会定例会（6月議会）が6月2日から24日まで開催されました。幼稚園教諭の保育士資格取得支援、公共事業に携わる職人の工賃単価の引き上げを主な内容とする4685・5万円の予算、高校野球の大会を3部制にするための小野路球場夜間照明設置や子ども発達センター（すみれ教室）の充実のための条例改正など議案12件や報告案件を審査しました。最終日には舛添前都知事辞任に伴い行われる都知事選挙予算1億5488・2万円の追加予算が可決されました。市長提出の全議案が全会一致で可決されました。

石阪市政が進めた補助金・扶助費の「上乗せ・横出し」削減に対して、市民活動を行う方々から削減に厳しい声が上がっています。

老人クラブ連合会が、補助金削減見直し求める

6月議会で、町田市老人クラブ連合会から「補助金削減見直しを求める請願」（5886筆。紹介議員は、共産党と市民クラブ）が提出されました。

請願では「補助金削減が…老人会を軽視するものと思われ、遺憾に耐えられないところ」であるとし、「介護予防活動や見守り活動を活発に行っていくため、老人クラブへの補助金削減の見直し」を求めています。

「小さいクラブは影響大 活動に水さす」

請願審査が行われた健康福祉常

障がい者福祉施設借上費補助金 削減で運営に影響あり

放課後児童デイサービスや就労継続支援A型・B型など市内24施設に対する障がい者福祉施設借上費補助金（家賃補助）が大幅に削減（補助率が90%から53%に激減）された問題について、3月議会で健康福祉常任委員会は「新年度以降削減の影響を慎重に見極められたい」という附帯決議を全会一致で可決しました（共産党は削減予算には反対）。

6月議会の委員会で「行政報告」が行われ、補助金削減の影響で「理事長兼施設長が常勤から非常勤になった」「利用者の料金が1・5倍になった」など運営に支障が出ていることが明らかになりました。市は、行政報告の時点で4カ所を訪問したことを明らかにしましたが、委員会の中では早期に全施設の調査を行うべきだという声が相次ぎました。

日本共産党市議団は、大幅に削減された施設借上費補助金の復活、障がい者施策の前進のために力を尽くしていきます。



任委員会では、補助金削減によって小さいクラブほど活動に影響が出ていることが明らかになりました。施設使用料が負担となり、活動回数を減らすことにより不活発になってしまうことへの懸念が表明されました。

請願者からの意見陳述では、老人クラブの活動として、一人暮らしの方への定期巡回、子どもの登下校時の見守り活動について紹介があり、削減がこれらの活動に「水を差すよう」で、非常に残念に思っている」という発言もありました。

請願の願意について「予算が成立していることから願意にすることはできない」と、いきいき生活部長が発言。質疑の中で日本共産党の渡場委員は「理解が進んでいない。説明不足ではないか。やり方が間違っているとは考えていないのか」と質しました。

請願は継続審査に 共産党は採択を主張

請願の取り扱いについて、日本共産党の渡場委員は「きちんと賛否をあらわすべき」と請願採択を主張しました。しかし、自民、公明、保守連合の委員から「継続すべき」との主張があり、採決の結果請願は継続審査となりました。

日本共産党は、不要不急の大型公共事業は推進しながら、暮らしや市民活動の予算を削減する市政を転換し、市民の暮らし、福祉、教育一番の市政をつくるために全力をつくします。

モノレールは住民合意前提で

市議会に設置されていた町田市交通政策特別委員会は、6月議会で、この間の議論を総括し報告を行いました。国が4月に発表した運輸政策審議会の答申を受けてのものです。「答申」では、多摩都市モノレールの延伸(多摩センター～町田)は、「まちづくりと連携した持続可能な都市鉄道」だとされました。

多摩都市モノレール(多摩センター～町田間約13km、14駅の計画)を走らせるためには幅員22mの都市計画道路の整備が必要です。すでに整備済みの道路町田3・3・36号線は小山田桜台入口～本町田小学校脇までと原町田大通りの合わせて約7kmです。また、本町田小脇～市民病院前まで(約2km)は現在整備中です。未整備の道路は2カ所です。1つは、都市計画決定済みの、市民病院前～サン旭体育館裏～町田高校グラウンド～町田第二中横～原町田大通り間(約1.2km)です。2つの学校や中央公園テニスコートを横切るとともに、少なくない軒数の住宅の立ち退きが必要となり、市民や関係者の理解と合意が必要です。もう1つは、下小山田から小山田緑地を抜け、尾根幹線道路を横切り多摩センター駅へと至るルートで、関東有数の景観と認められた「奈良ばい谷戸」などがある北部丘陵に道路をつくらなければなりません。この間の道路整備は町田市が担当しており、現在測量が行われています。

日本共産党市議団は、多摩都市モノレールが市民生活に役立つ公共交通として必要性がある一方で、道路や駅舎の整備にあたっては、住環境や貴重な自然環境や景観に与える影響など市民の理解と合意を得ることが前提であると考えます。同時に、交通不便地域における路線バスやコミュニティバスの運行を優先すべきだと考えます。



近くがモノレールのルートとなる奈良ばい谷戸

共同提出

「舛添知事の辞職を求める決議」

都民の厳しい批判の中、6月に辞職した舛添都知事の高額海外出張や政治資金不正使用疑惑等について、日本共産党は6月2日の本会議に、速やかに真実を究明し、辞職を求めるという「舛添知事の辞職を求める決議」を保守連合会派と共同提出しました。

結果は、自民、公明などの反対で否決になりました。その後、公明、自民が提出した「舛添都知事の政治資金の不正使用疑惑など徹底究明を求める決議」は、全会一致で可決。共産党は、賛成討論で、100条委員会設置と辞職を求めました。

国保税の納税通知発送

「あまりにも高すぎる」

7月上旬に前年度から平均20%値上げされた国保税の納税通知が発送されました(値上げ条例に共産党は反対)。加入者からは「高すぎて驚いた」という声が出されています。共産党は払える国保税にするために力をつくします。



問い合わせ(町田市保険年金課)
☎724-4027

共産党市議団の一般質問

南町田周辺開発 すでに計画以上の通行量



細野りゅう子市議は、市と東急電鉄が進める南町田駅周辺整備事業について、車両の通行量が商業施設が整備される前に、すでに計画量を超える車両が運行していることで、あらためて調査したうえで計画に反映することを求めました。

介護保険サービスから外される要支援者の総合支援事業について、デイサービスや生活支援サービスがこれまで通り維持されるかどうかただし、いきいき生活部長がこれまでのサービスを維持すると答弁しました。

訓練の充実など災害対策強化を



佐々木とも子市議は、町田市の災害対策について質問。担当部長は、避難行動要支援者の二次避難施設受け入れは平時から丁寧に情報提供していく、避難施設関係者連絡会や指定職員(各4名)を入れた開設訓練を71すべての避難施設で実施できるようにしたいと答弁。また学校図書館の放課後開館や学校図書指導員の処遇改善のほか、小山田桜台の路線バス乗り継ぎ拠点整備にあわせて、「乗り継ぎ割引」の早期導入を事業者に働きかけるよう求めました。

保育園に落ちない町田に



池川友一市議は、保育園に落ちない町田市を求めて質問。待機児童が増加に転じたことを深刻に受け止め「計画の前倒し実施」を求めました。担当部長は、「地域ごとの人口増、効果的な地域や手法など柔軟に対応していく」と答弁。国が進める面積や職員配置の基準緩和について行うべきでないと質問したの対して、「現状の基準を維持する」と答えました。また、100名を超える学童保育クラブが急増している問題について取り上げ、増設や完全分割化など保育環境の質を抜本的に改善するよう求めました。

市民のニーズに応える図書館を



渡場さとし市議は、市民のニーズに応える図書館を求めて質問。図書購入費が昨年比で3割も削減され、リクエストが一部制限されたことを指摘しましたが、他のサービスで補うとの回答でした。また、小山地域への図書館建設についても求めました。

他には、ゴミ袋の値下げを求めて質問。70歳以上に無料配布されて来たゴミ袋は、対象者が半減されることが明らかになりました。また、整備された相原駅前について質問。更なる利便性を高めることを求めました。

無料

法律相談

毎月第2、第4水曜日 午後2時～

8月24日、9月14日、9月28日

要予約 ☎042(723)6312 市役所3階日本共産党会派室

生活相談は随時実施しています。お困りごとは、お気軽にご相談ください。